アリンコの話

全国研究会にて。2012.10.6
（庄司）

1 アリンコの三段階論文づくり

テーマ　アリンコとは何か

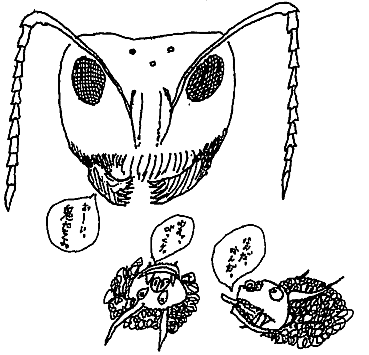
（2012.7.14つくる。庄司和晃）

三 アリンコとは、歩く歩く歩く虫である。

とにかく、歩く。ちょっと驚くと、こんどは走り回る。走る走る、どこまでも走って行く。機敏な虫である。「虫」といっても、弱虫や泣虫の虫ではない。足を6本もっている昆虫である。アリンコは、その昆虫の一種である。歩く昆虫である。『アリ』の名は、文字通り、歩くという言葉に由来していると、いわれている。そういえば、歩くことを、平安期や鎌倉期には、アリクとかアリキというふうにも、呼称されていた。鎌倉期に、修行者が出歩くことを禁じた文書に、「ありきをこの虫べからず」という一条が、見えている。ずーっと降って、明治期にもその呼称が残ってもいる。子規の句に、「ありく叟の庭は椅ちけりけふの月」と、あるように。アリクは、文人たちに愛されてきた言葉らしい。意味からいうと、歩く（アルク）の方は、一歩一歩と踏みしめて前進することである。他方の、歩く（アリク）は、そちらこちらと移動しながら、歩き回ることである。そうすると、「アリ」の呼び名は、後者のアリクから来たというのが、最もピッタリしたものだといえよう。

〈アリの方言のこと。中国の「蟻子」のこと。蟻族の意味。小学4年生のアリの定義。系統樹のこと。〉

二 たとえてみると、鬼みたい。


おーい、鬼だぞよ。
やあ、びっくり。
なんだ、かんだ。

顔つき。アリンコの顔つきが、まったく、そういう感じ。空想上の鬼なれど、その口には、肉を切りさく、するどい牙があるように、アリンコにはまた、くいついたら離さないという、みごとな大あごが、口元にどっしりと、いすわっている。右の絵図のごとく。鬼は、人みたいな瞳を大きく見開いて、らんらんとした目をもっているように、アリンコには独有の複眼が、意味深く、にらんでいるように見える。鬼は、褌をしめて、金棒をつかんで、いどんでくるような恰好だが、アリンコにはまた、なんとも すごい触角が太々と、ひかえている。もしも、アリンコが鬼と同じぐらいに身長があったとしたら、鬼がいくら金棒を振り回しても、アリンコには、かなわないのではなかろうか。なにしろ、足が、鬼よりも4本も多く、歩くのも走るのも、抜群ときているからである。

〈鬼の由来とその様相。アリンコの触角の、ひざ形に曲がること。単眼、そして口の構造など。〉

一 体験に、オオアリとの出会いがあった。

日本で最大のアリンコは、オオアリである。クロオオアリとムネアカオオアリと、である。オオアリのの女王は、2センチほどもある。働きアリは、1.2センチぐらい。頭のでっかくなった働きアリ、すなわち兵アリは、1.5センチくらいである。兵アリは、ちょっといたずらすると、まさに鬼のように、たちむかってくる。かまれたら、痛い！

ところで、昭和29年（1954）の6月頃であった。昆虫学の古川晴男博士から、「庄司さんは、山形の出身でしたね。こんど、くにに帰ることがあったら、ムネアカオオアリを5、6匹捕ってきてくれないか。」と、いわれた。「えっ、ムネアカオオアリですか。」と、それまで、このアリのことを知りなかった。説明ききいて、なーんだ、小さい頃、山形の家のまわりにいっぱいいた、あれがそうかと、はじめて意識した。思い出の形で、あらためて出会ったわけだ。その後、古川博士の手ほどきで、昆虫とのつきあいを深めてきた。
〈今は、認識論と論理学のさうぎの中で、活用しているところである。〉

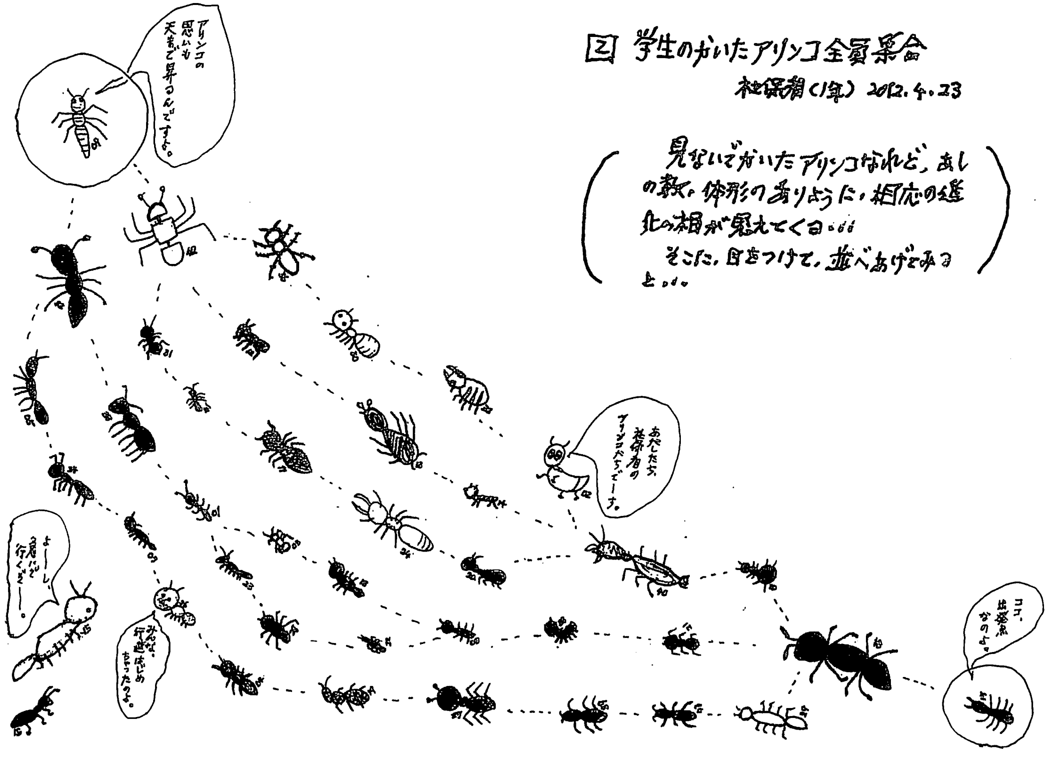
結論 アリンコを知ることは、ヒトを知ることに直結する。（本能の進化と知能の進化）

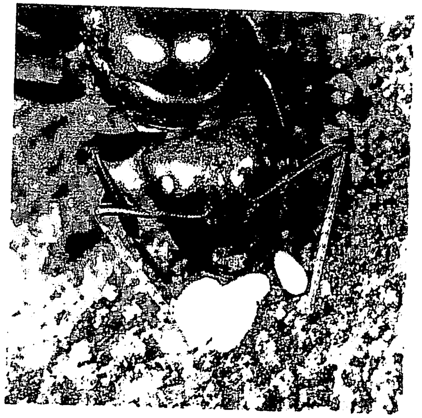
感想 アリンコの論文をつくると、ひとりでに、自分の学問の足どりを問うことになる。そのことを、あらためて自覚した。

2 学生のかいたアリンコ全員集合

杜保智（1年） 2012.4.23

（見ないでかいたアリンコなれど、あしの数、体形のありように、相応の進化の相が見えてくる…
そこに、目をつけて、並べあげてみると…）


アリンコの思いも天まで昇るんですよ。
あたしたち、杜保君のアリンコたちでーす。
よーし、急いで行くぞー。
みんな、行進はじめちゃったよ。
ココ、出発点なのよ。



小学館こども文庫・科学シリーズ 5 あり・1981・P.23

3 アリンコをたとえると

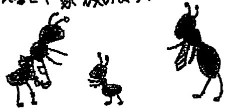
三のレベルの認識。
（イメージ）

[illegible]（3年） 2012.4.23

たとえると、人間みたい。

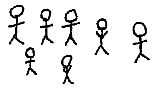
人間も家族があり、一緒に住む。
人間も単独行動より、集団行動を好む。

たとえると、家族のようだ

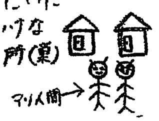


たとえると、人間みたい。
一生懸命働いてごはんを食べるためにお金を稼ぐ。そして家族のために働く。

たとえると、人間のようだ、
人間のように家族をつくり階級もあるからである。



たとえると、人間みたいだ
1匹だけでは生きていけないし、しっかり帰る場所(巣)があるから。

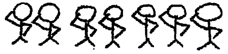


たとえると、人間に似ている。

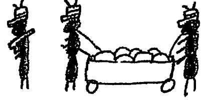
たとえると、
人間である。

軍隊。

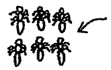
たとえると、兵士のようだ。



たとえると、兵隊のようだ。

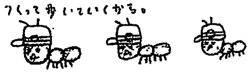


たとえると、軍隊のごとし。



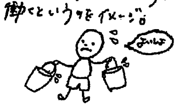
規則正しく
並んでいる図…

たとえると、兵隊みたい。
行列をつくって歩いていくから。



たとえると、一家の大黒柱みたい。

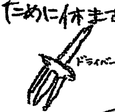
たとえると、お父さんのようだ。
よく働くというのをイメージ。



たとえると
一家のだいこくばしらのようだ。
(頑張りや)

たとえると、
日本の働き盛りのお父さんのようだ。

たとえると、父のようである。
いつも家族のために休まず働いてくれている。

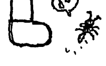


たとえると、小さな巨人である
小さいけど大きなものを運べる力を持っているから。

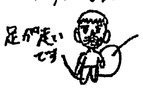
たとえると、小さいライオンだ。

たとえると、怪物である。

たとえると、怪物のようだ。
アリは毎日戦って生きている。

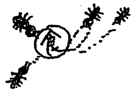


たとえると、すばしっこい食べ物泥棒です。

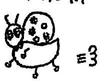


足が速いです
ふろしきの中に食べ物が入っている

たとえると、食べ物探知機である



たとえると、泥棒のようだ。

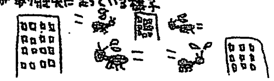


たとえると、砂糖どろぼうのようだ。

たとえると、サラリーマンのようだ。
集団で組織を維持するため努力している。

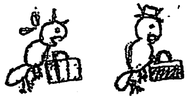
たとえると日本の営業マンのようだ。

たとえると、労働者のようだ。
アリが朝早くに走っている様子

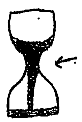


たとえると、サラリーマンみたいだ。

たとえると、働らくサラリーマン。

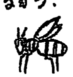


たとえると、砂のようだ。



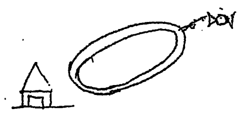
← 砂です。
(砂時計)

たとえると、働き蜂と女王蜂がいるように蟻もいるから。

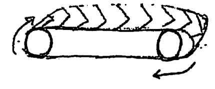


たとえると、地上でも生活できるモグラ。
モグラは普通目がみえないので地中でしか生きられない。

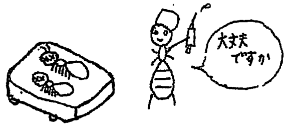
例えると、歩くコンビナートみたいである。ずっと、同じ作業を繰り返し、何度も繰り返ししているからである。
リングである。



たとえると、ベルトコンベアーのようだ。

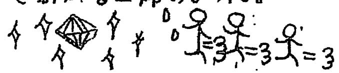


たとえると、病院で勤務する看護師である。

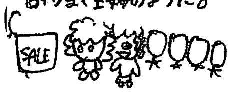


たとえると、小銭を貯金する人のようだ。

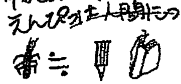
例えると、デパ地下の安売りセールで群がる主婦のようだ。



たとえると、スーパーのタイムセールに群がる、主婦のようだ。



たとえると、
物である。本はただ読まれるために、えんぴつは人間につかわれるためだけにうまれたのと同じようである。



◎ 大方は、ヨイところを見ているようである。「たとえ」は、生態面のものが、ほとんど。